

トヨタ 2000GT

TOYOTA 2000GT

見る者を魅了する流麗なフォルム。
日本車史上、もっとも美しいスタイル。

3



今なお語り継がれる伝説のグランドツーリングカーを再現！

1:10 SCALE

全長 417mm

 DeAGOSTINI

9号

キャブレターに、 インテーク エア コネクターを 取り付ける

今号では、エンジンの右側面に「オイルフィルター」と「オイルプレッシャー センダ ゲージ」を、左側面のキャブレター外側に「インテーク エア コネクター」を取り付け、そこに「コーションシールA」を貼り付ける。作業自体は簡単だが、コーションシールを貼り付ける作業は慎重に行おう。

今号のパーツ



※パーツ③は④に貼り付けられた状態で提供されます
※セット品⑤は写真とデザインが異なります

- ①オイルプレッシャー センダ ゲージ
- ②オイルフィルター
- ③コーションシールA
- ④インテーク エア コネクター
- ⑤ロングタイプドライバー(1番)

使用する道具

・ピンセット
(2号で提供したもの)

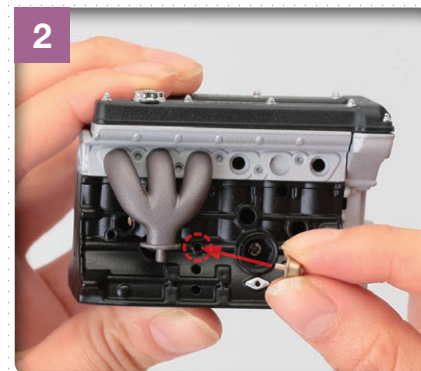
用意するもの

・エンジンブロック
(5号で組み立てたもの)

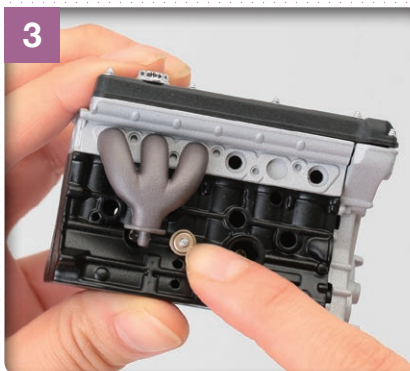


エンジンブロックを用意し、5号で取り付けしたマニホールド(前)を取り外す。これは、今号での作業をスムーズに進めるための一時的な処置だ。

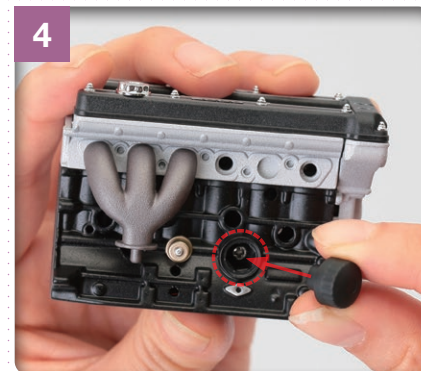
※マニホールド(前)を取り外す際は左右のボスを破損しないように注意してください。



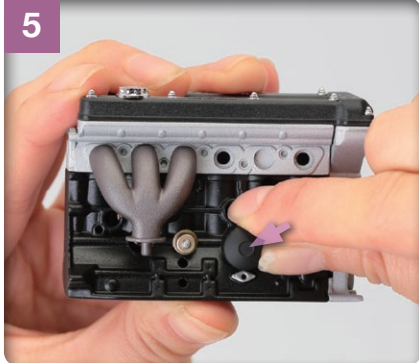
写真で示した位置に①オイルプレッシャー センダ ゲージをセットする。



オイルプレッシャー センダ ゲージを真っすぐに押し込んで、エンジンの右側面に取り付ける。



次に②オイルフィルターを用意し、写真で示した穴にセットする。この穴の奥には、シリンダーブロック左右を固定するビスがあり、オイルフィルターを取り付けることによって、ビスを隠すわけだ。



5
オイルフィルターを真っすぐに押し込んで、エンジンの右側面に取り付ける。



6
1で取り外したマニホールド(前)を取り付ける。



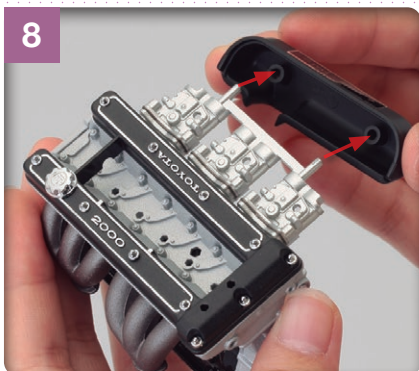
7
ピンセットを使って③コーションシールAを台紙からはがし、写真を参照して④インテークエアコネクタ上面に貼る位置を決める。位置決めをしたらシールの端部分を貼り付け、シールがゆがまないよう注意しながらインテークエアコネクタに貼り付ける。

Parts in focus

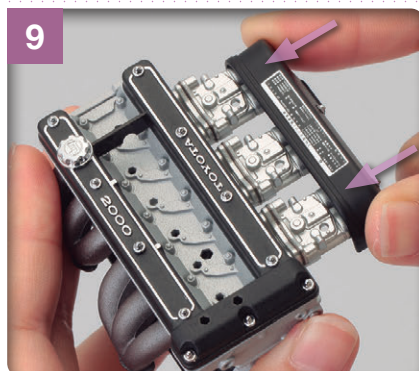


コーションシールの位置

写真では中央より、やや右寄りになっているのが確認できる。実車に貼ってあるコーションシールの位置を参考にして、本モデルの完成度を高めよう。



8
キャブレターから突き出している2本の取り付けピンを、インテークエアコネクタ内側に設けられたポスト(円筒形の支柱)の穴にセットする。



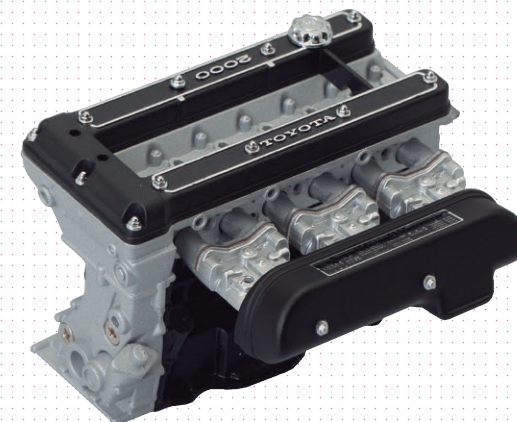
9
キャブレター側のピンを、ポストの穴に奥まで押し込む。



10
エンジンを正面から見た状態。インテークエアコネクタの上面が、キャブレターに対して“斜め”になっていれば、正しく取り付けられている。

今号の完成

これで今号の作業は完了だ。エンジンブロックに、少しずつではあるがパーツが取り付けられ、号を重ねることにリアリティーが高まっていくのが分かるだろう。組み立てたパーツは次回の作業に備え、大切に保管しておこう。

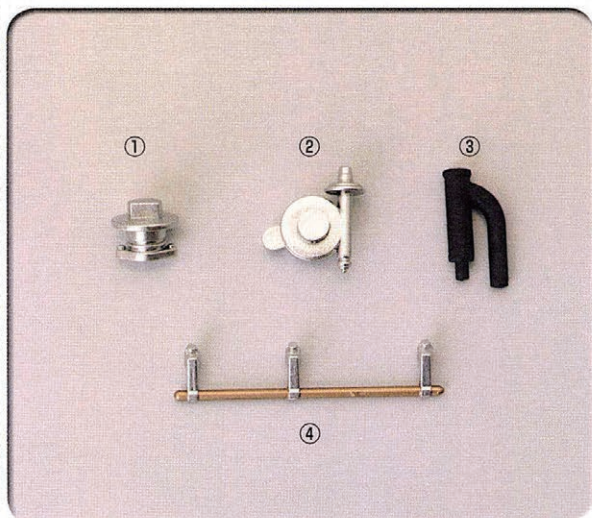


10号

ディストリビューターの組み立てと、 アクセルレーターリンクシャフトの 取り付け

今号では、ディストリビューター下半分の組み立てと、アクセルレーターリンクシャフト、およびベンチレーションチューブの取り付け作業を行う。どのパーツも比較的小さいので、乱雑に扱くと破損する恐れがある。十分に注意して作業を進めよう。

今号のパーツ



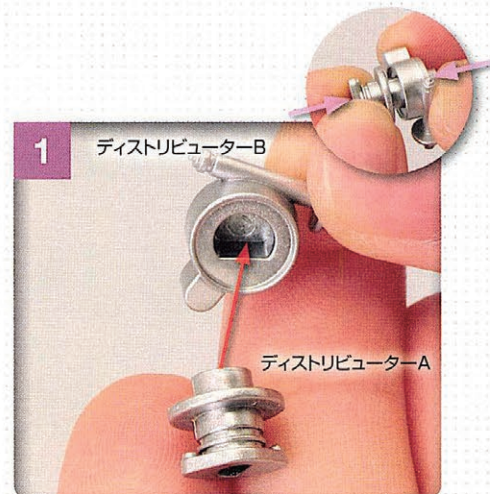
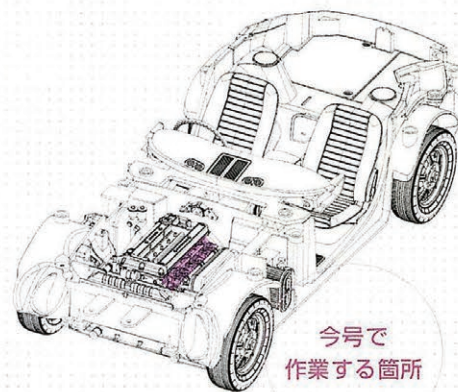
- ①ディストリビューターA×1
- ②ディストリビューターB×1
- ③ベンチレーションチューブ×1
- ④アクセルレーターリンクシャフト×1

使用する道具

・特になし

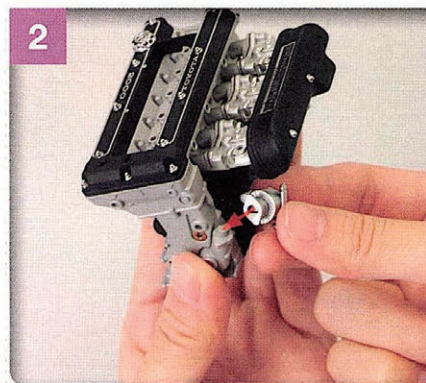
用意するもの

・エンジンブロック
(9号で組み立てたもの)



1 ディストリビューターB
ディストリビューターA

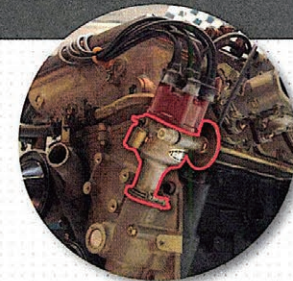
①ディストリビューターAと②ディストリビューターBを用意し、それぞれの上下両端部分の形状を確認しよう。写真で示したディストリビューターAの突起は、ディストリビューターBの穴とかがみ合うようになっている。ディストリビューターA上面の突起部を、ディストリビューターB下面の穴に形状を合わせてしっかりと奥まで差し込もう。

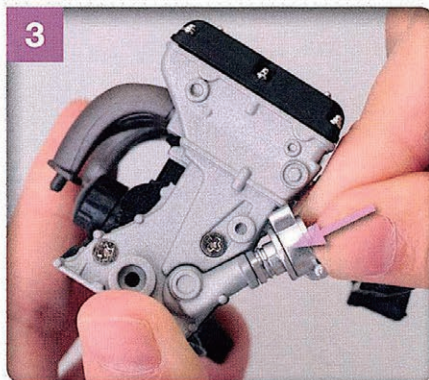


2 9号で組み立てたエンジンブロックを用意し、1で組み立てたディストリビューターを写真で示した突起部に、穴の形状を合わせてセットする。

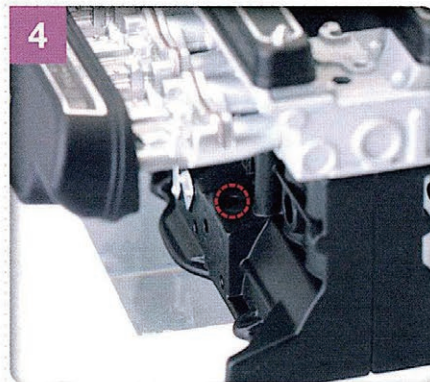
Parts in focus

今号で組み立てるディストリビューターは、エンジンの各シリンダーヘッドに取り付けられたスパークプラグへ電力を供給するための装置だ。現在は電子制御される装置だが、往時はエンジンの動きに連動させた「機械式制御」だったことが、提供したパーツ構成から分かるだろう。

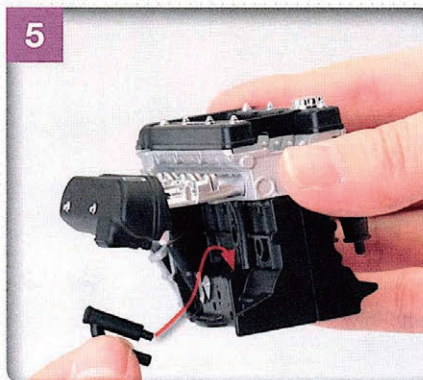




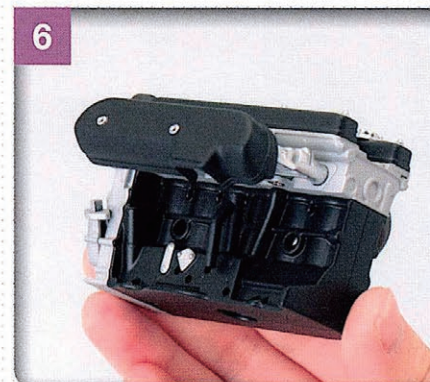
3
ディストリビューターを真っすぐに押し込み、エンジンブロック前面に取り付けてあるディストリビューター・ドリブンギアスリーブにはめ込む。



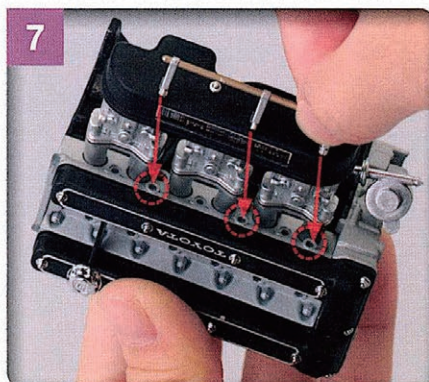
4
次にエンジンブロックを左斜め後方から見て、写真で示した穴の位置を確認する。キャブレターの下の、やや後ろ寄りにあるが、判別しにくいのでしっかりと確認しておくこと。



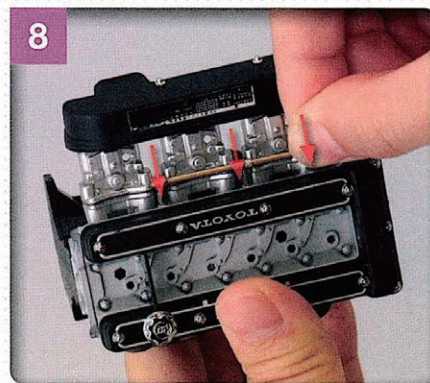
5
③ベンチレーションチューブを用意し、④で確認した穴に細くなっているピン部分をセットして、穴が設けられている面に対して垂直に差し込む。



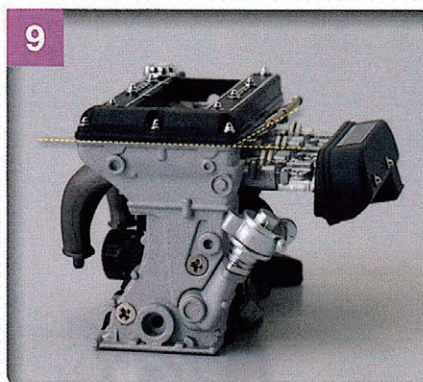
6
ベンチレーションチューブを差し込んだ状態。写真のようになっているか確認しよう。



7
④アクセラレーターリンクシャフトを用意し、ヘッドカバー左側面の下に設けられた取り付け穴へセットする。アクセラレーターリンクシャフトには向きがあるので、写真と照らし合わせながら作業しよう。

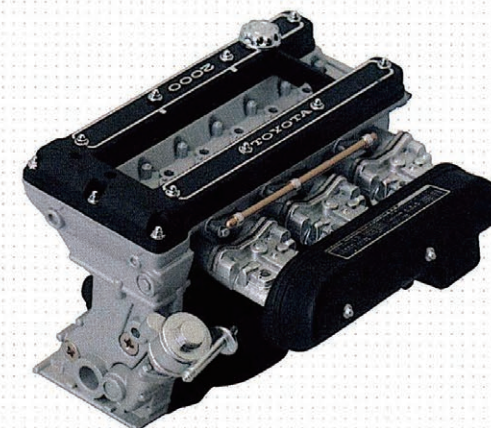


8
アクセラレーターリンクシャフトに設けられた3本の取り付けピンを、それぞれシリンダーヘッド左側面の穴に差し込む。ピンの長さが短いので外れやすいが、これは破損を防ぐための仕様だ。



9
アクセラレーターリンクシャフトを取り付けた状態。写真のような角度で取り付けられていることを確認しよう。

今号の完成

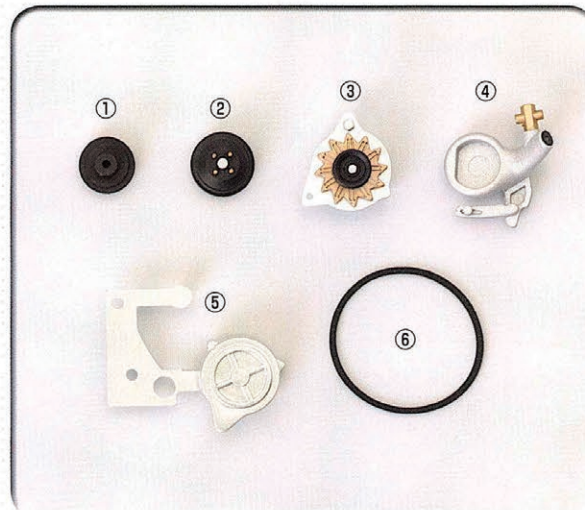


これで今号の作業は完了だ。最後に取り付けしたアクセラレーターリンクシャフトは外れやすいが、エンジンブロックの組み立てが完了した段階で固定(接着)する予定なので、現段階ではそのままの状態を保管しておこう。

11号

オルタネーターと ウォーターポンプを取り付ける

今号では、10号で組み立てたエンジンブロックのフロント側に「オルタネーター」と「ウォーターポンプ」を取り付け、それらを「Vベルト」でつなぐ作業を行う。注意点はVベルトの「かけ方」で、ベルトがねじれないよう慎重に作業しよう。また、パーツの一部は非常に細くなっているため、作業時に破損しないようにしよう。



- ①プーリー
- ②ウォーターポンプ・プーリー
- ③オルタネーターファン
- ④ウォーターポンプ
- ⑤オルタネーターブラケット
- ⑥Vベルト

使用する道具

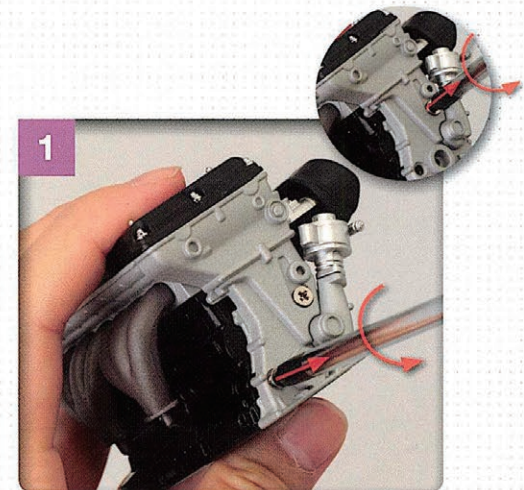
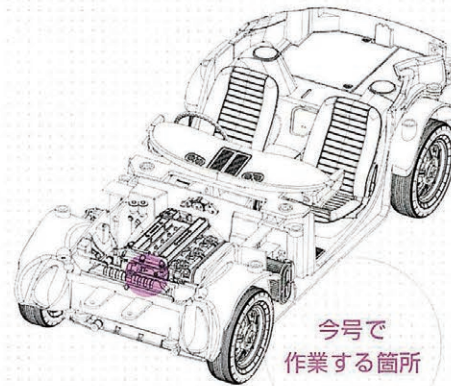
・プラスドライバー(1番)

用意するもの

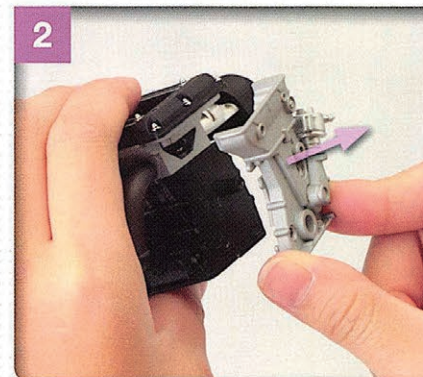
・エンジンブロック
(10号で組み立てたもの)

あると便利なもの

- ・両面テープ(薄い紙製のもの)
- ・カッターナイフ
- ・ピンセット(2号で提供したもの)
- ・カッティングマット
- ・直線定規



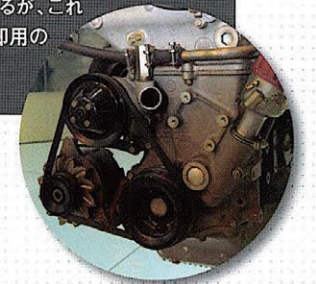
10号で組み立てたエンジンブロックを用意し、写真で示したビスを1番のプラスドライバーを使って一時的に外す。取り外したビスは、後の作業で再度使用するのだから、紛失しないよう保管しておく。続いて、もう1本のビスもドライバーで取り外す。

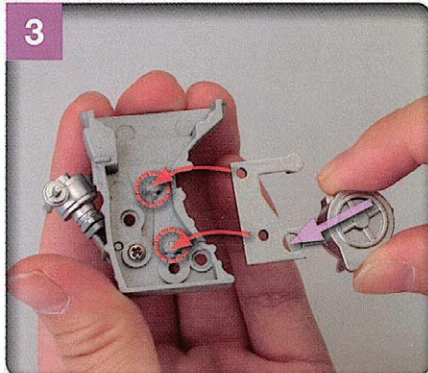


シリンダーブロック(前)を真っすぐに引き抜き、エンジンブロックから取り外す。

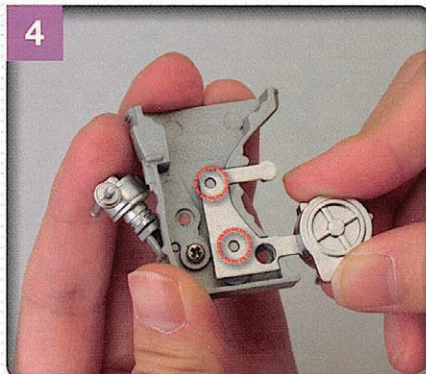
Parts in focus

今号で組み立てる「オルタネーター」は、エンジンの回転を利用した小型発電機だ。クランクシャフトの延長上に設けられたプーリーに「Vベルト」をかけ、それによってオルタネーターと、冷却水を循環させる「ウォーターポンプ」を動かすようになっている。パーツ正面に金色の部分が見えるが、これはギアではなく、冷却用のファンになっている。

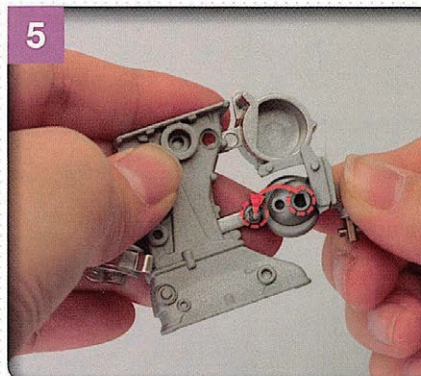




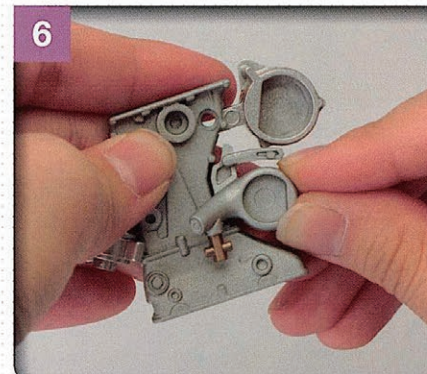
3
取り外したシリンダーブロック(前)を裏返して持ち、⑤オルタネーターブラケットを写真のように合わせる。



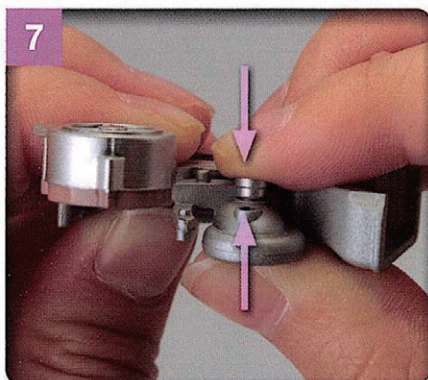
4
シリンダーブロック(前)の裏面に設けられた2本のピンに、オルタネーターブラケットを写真のようにはめ込む。



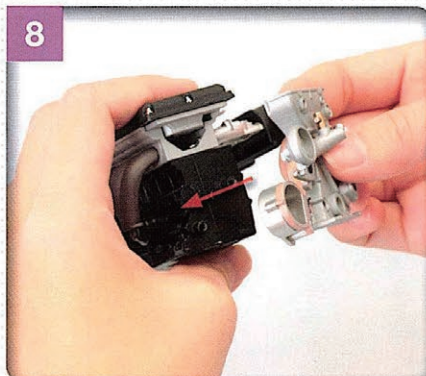
5
はめ込んだオルタネーターブラケットが落ちないように指先で保持したまま、シリンダーブロック(前)を表側にする。次に④ウォーターポンプを用意し、裏面に設けられた取り付け穴の形状を確認する。



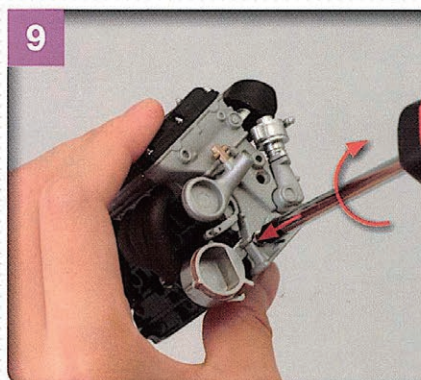
6
オルタネーターブラケットに設けられた取り付けピンを、ウォーターポンプの取り付け穴に差し込む。このとき、オルタネーターブラケットがシリンダーブロック(前)から外れないよう注意する。



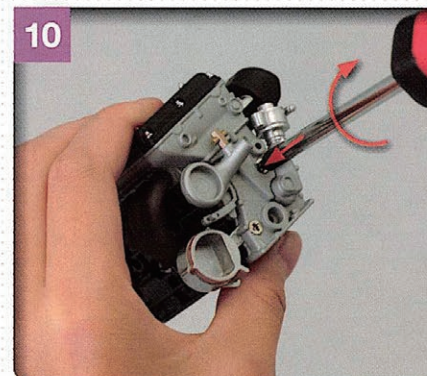
7
オルタネーターブラケット側のピンを、ウォーターポンプにしっかりと押し込む。



8
オルタネーターブラケットが外れないよう保持したまま、シリンダーブロック(前)をエンジンブロックの元の位置にはめ込む。



9
①で取り外したビスを写真のビス穴にセットし、ドライバーを使ってねじ込む。



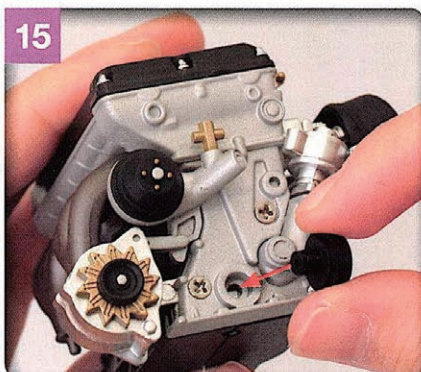
10
①で取り外したもう1本のビスも写真のビス穴にセットし、ドライバーでねじ込んで、シリンダーブロック(前)を固定する。



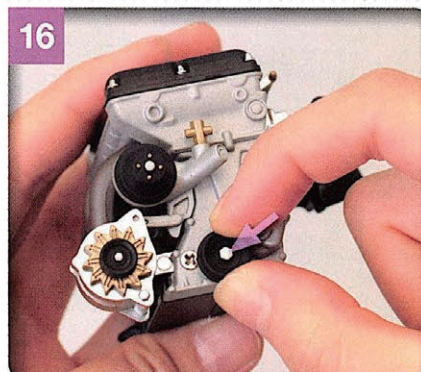
③オルタネーターファンを裏返して写真のように持ち、オルタネーターブラケットに設けられた取り付け穴の形状を確認する。パーツ上部に小さいピンと穴が設けられていることも確認しておく。



オルタネーターブラケットに設けられた取り付け穴に合わせ、オルタネーターファンをはめ込む。このとき、11で確認した小さいピンも、忘れずに穴へ差し込み、しっかりと押し込んでおく。



①プーリーを用意し、写真で示した取り付け穴にセットする。この穴は真円なので、形状を合わせる必要はない。



プーリーを真すぐに押し込んで、シリンダーブロック(前)の下部に取り付ける。



②ウォーターポンプ・プーリーを用意し、写真で示した取り付け部の穴形状に合わせてセットする。



ウォーターポンプ・プーリーを真すぐに押し込んで固定する。あまり強く押しすと、ウォーターポンプを取り付けている部分が破損するので注意が必要だ。

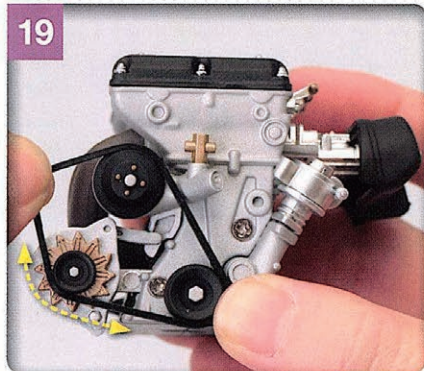


⑥Vベルトを用意し、ねじれていない状態にする。次に、16で取り付けたプーリーに片端をかけ、そのまま写真で示した方向にゆっくりと引き伸ばす。

※Vベルトは外れやすいので、13ページで紹介している「両面テープを使った仮留め」を行っておくといい。



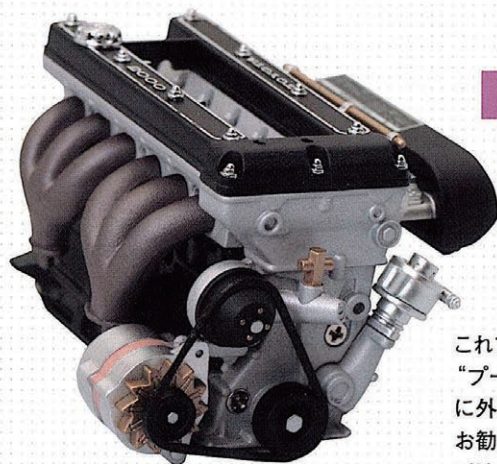
17で引き伸ばした上側のベルトを、ウォーターポンプ・プーリーにかけて、左下方向にゆっくりと引き伸ばす。



最後に、オルタネーターファンの黒い部分にベルトをかける。



取り付けたVベルトの状態を確認する。ベルトが途中でねじれていた場合は、17の作業からやり直そう。



今号の完成

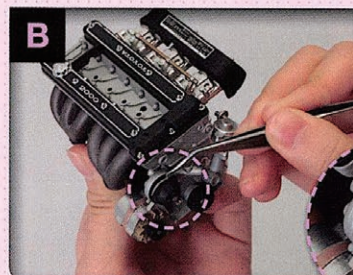
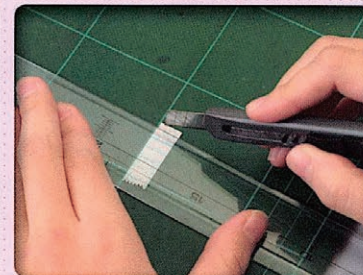
これで今号の作業は完了だ。Vベルトは“プーリーにかけてあるだけ”なので簡単に外れてしまうが、接着剤による固定はお勧めできない。今後の作業内容によっては、必要に応じて取り外すこともあるので、紹介している「紙製の両面テープを使った仮留め」程度にしておこう。

Vベルトが外れてしまう場合の対処法

Vベルトは合成ゴム製パーツのため、作業時の引っ張り具合などによってねじれたり、かけた部分から外れたりすることが多い。それを防ぐには接着するのが一番簡単だが、瞬間接着剤はゴムの伸縮性を損なうので使用できない。ゴム系接着剤も、塗布した部分からはみ出し、モデルを汚すおそれがあるため、薄い両面テープを使う方法を紹介しよう。

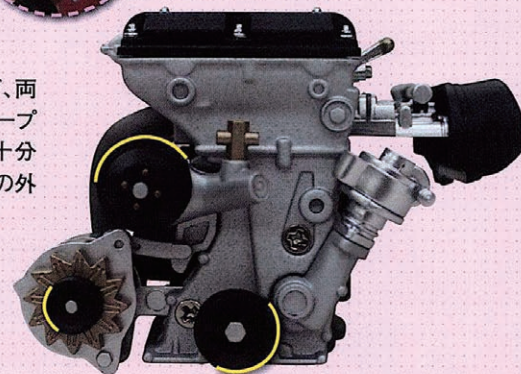


薄い紙製の両面テープをカッティングマットに貼り、直線定規とカッターナイフを使って「1mm幅」に切る。



1mm幅にカットした両面テープを、Vベルトがかかる部分にだけ貼り付ける。あとは両面テープの台紙をはがし、手順に従ってVベルトを掛けていく。

C 写真で黄色く示した部分が、両面テープを貼る位置だ。テープの長さは4~5mmあれば十分で、それ以上長いとモデルの外観を損ねるので注意しよう。



12号

エキゾーストセンターパイプにマフラーを取り付ける

今号では、5号で組み立てたマフラーを「エキゾーストセンターパイプ」に取り付ける。ただし、これらのパーツはシャシーフレームにビスで固定する仕様のため、現段階ではマスキングテープによる“仮留め”となる。これは、メッキ処理されたマフラーが転がることによって、表面に傷が付いてしまうのを防ぐためだ。

今号のパーツ



※セット品①は写真とデザインが異なります。今号では使用しません

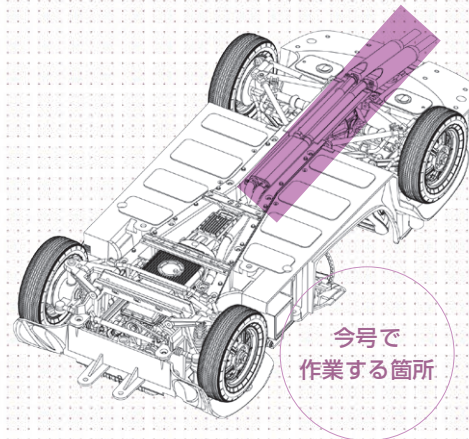
- ①クロスレンチ
- ②エキゾーストセンターパイプ

使用する道具

・特になし

用意するもの

・マスキングテープ
 ・マフラー×2
 (5号で組み立てたもの)



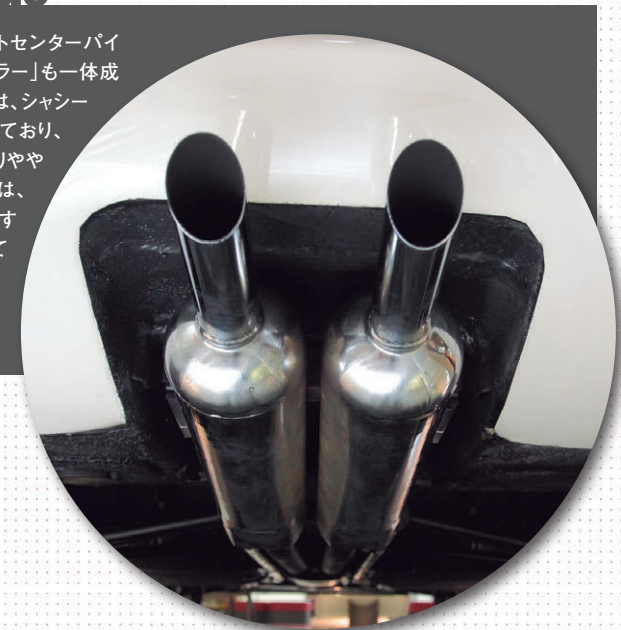
今号で作業する箇所



②エキゾーストセンターパイプと、5号で組み立てたマフラーを用意し、写真で示したエキゾーストセンターパイプ後端部分にマフラー前端部分をはめ込む。

Parts in focus

今号で提供する「エキゾーストセンターパイプ」だが、正確には「サブマフラー」も一体成型されている。実車の排気系は、シャシーフレーム中央の真下に配されており、サブマフラーは車体の中央よりやや後ろに装着される。モデルでは、一体成型されたパーツを採用することで、初心者でも組み立てやすい仕様としている。





エキゾーストセンターパイプ後端の、写真で示した部分までマフラーを差し込む。このとき、マフラーが外れやすくても、最終的にはビスでシャシーフレームに固定するので、気にする必要はない。

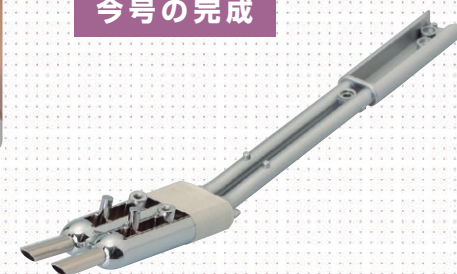


もう1本のマフラーも、同じ要領でエキゾーストセンターパイプ後端に取り付けておこう。



マスキングテープを用意し、**3**で組み立てたマフラーとエキゾーストセンターパイプとの継ぎ目部分に巻き付けて仮留めをする。

今号の完成



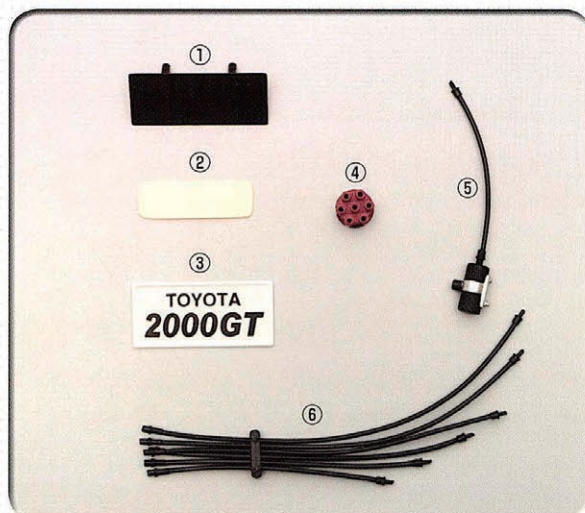
これで今号の作業は完了だ。モデルに取り付ける際も写真のような角度になるが、その場合はビスによって確実に固定されるので、角度のズレは解消される。また、この状態で保管すればメッキ仕様のマフラーが転がることを防げるので、表面に傷を付けずに保管できる。

13号

スパークプラグコードを取り付け、ナンバープレートを組み立てる

今号では、11号で組み立てたエンジンブロックに「スパークプラグコード」を取り付け、ディストリビューターと接続する。スパークプラグコードとディストリビューターキャップの接続には順番があり、なおかつ取り付け用のピンが細く短いので、パーツ破損などに注意して作業しよう。なお、作業中は「Vベルト」や「アクセラレーターリンクシャフト」が外れやすいので、一旦取り外した状態にして作業を進めても、最後に付け直せば問題はない。

今号のパーツ



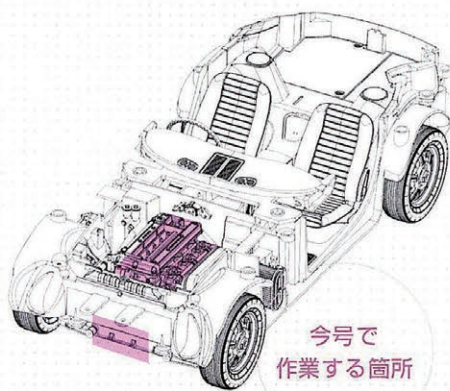
- ①ナンバープレートフレーム
- ②両面テープ
- ③ナンバープレート
- ④ディストリビューターキャップ
- ⑤イグニッションコイル
- ⑥スパークプラグコード

使用する道具

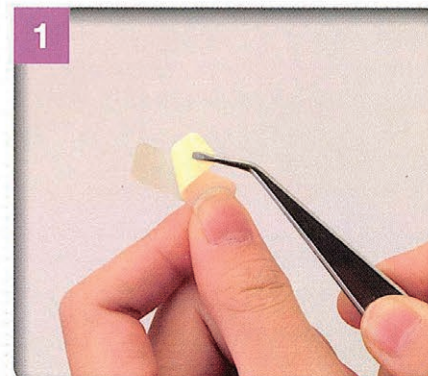
・ピンセット
(2号で提供したもの)

用意するもの

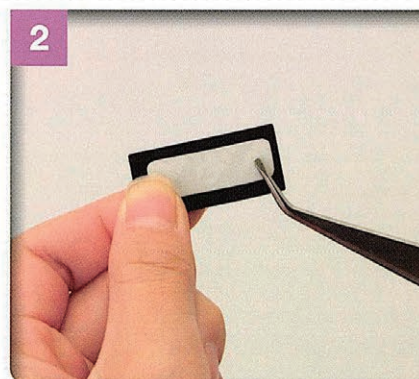
・エンジンブロック
(11号で組み立てたもの)
・紙
・筆記用具



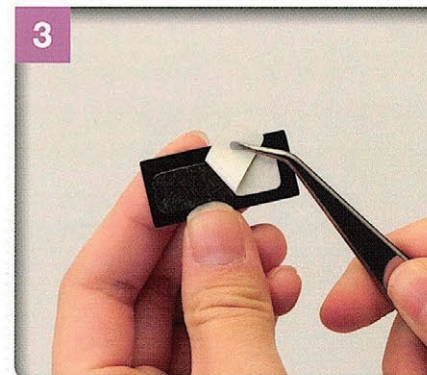
今号で作業する箇所



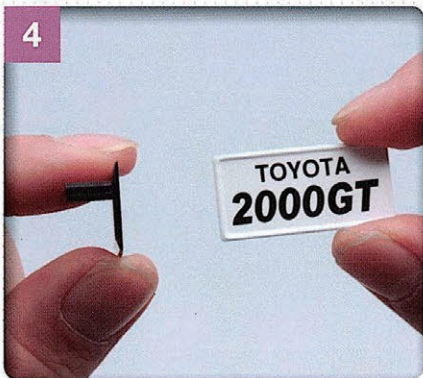
②両面テープを用意し、ピンセットを使って台紙を剥がす。台紙はテープの両面に貼られているが、どちらか片方を剥がせばいい。



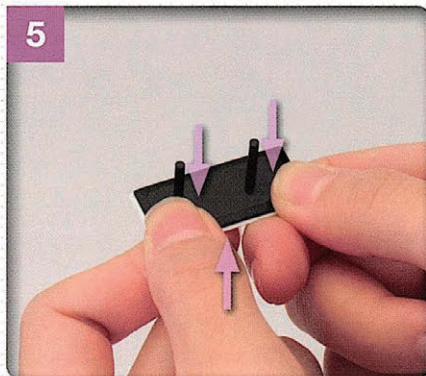
①ナンバープレートフレームを用意し、表面(取り付けピンが突き出していない面)の中央に、台紙を剥がした両面テープを貼り付ける。



残った台紙の上からしっかりと押さえて両面テープを貼り付け、ピンセットで残った台紙を剥がす。



④ナンバープレートを用意し、③で両面テープを貼ったフレームの上下を確認してからセットする。写真のように、取り付けピンのある方が上になるので、ナンバープレートの上下もそれに合わせる。



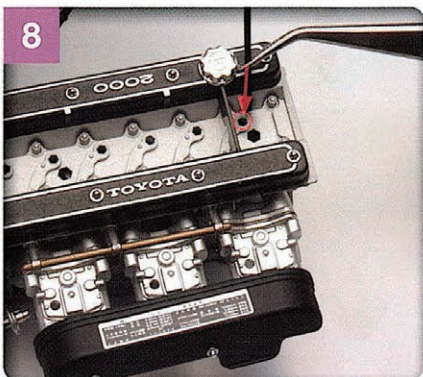
ナンバープレート裏側の中央に、ナンバープレートフレームを貼り付ける。位置がずれないように、慎重に作業しよう。



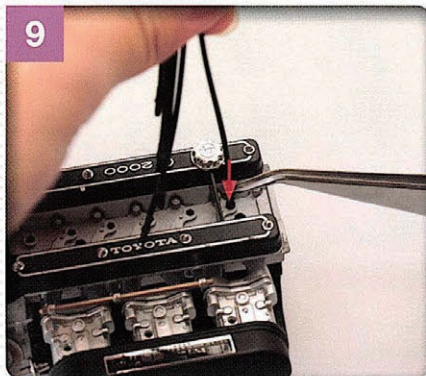
ナンバープレートとナンバープレートフレームを挟むように持ち、しっかりと押さえて貼り付ける。このとき、ナンバープレートの文字部分を強くこすらないよう注意しよう。これでフロント用ナンバープレートは完成なので、車体への取り付け作業まで大切に保管しておこう。



⑥スパークプラグコードを用意し、裏側（ホルダー部の取り付けピンが突き出している側）を上にして平らな台に置き、写真のようにならしておく。このとき、ディストリビューターキャップに取り付ける側（取り付けピンが細い方）は、一列に並ぶよう揃えておこう。なお、スパークプラグコードのホルダーは、スライドして動くようになっているので、写真を目安にして位置を調整しておく。



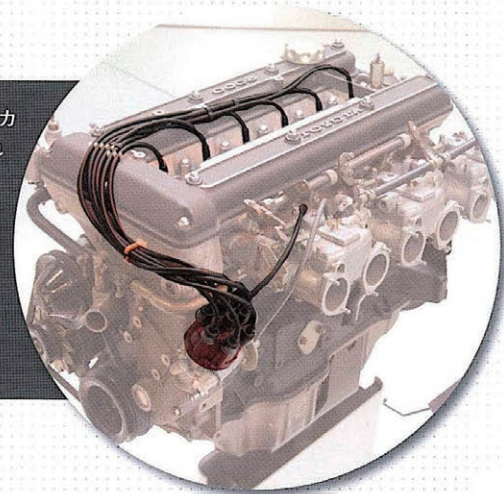
11号で組み立てたエンジンブロックを用意し、スパークプラグコードの“一番長いコード”を、写真で示した取り付け穴に差し込む。



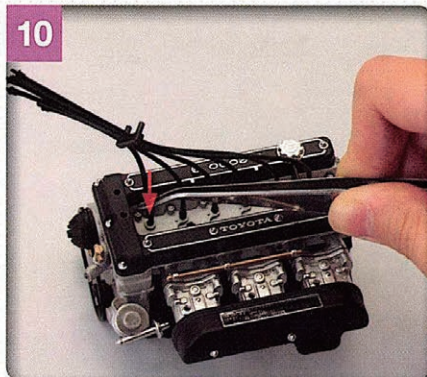
ピンセットを使い、プラグコード先端の樹脂パーツ部分をしっかりと奥まで差し込む。続いて、同じ要領で各コードを“長い順”に差し込んでいく。なお、各コードは抜けやすい場合もあるが、現時点では接着による固定は行わない。

Parts in focus

2000GTに搭載される3M型エンジンは、ヘッドカバー中央に6本のスパークプラグが取り付けられている。プラグは気筒ごとに装着されているが、それぞれの点火タイミングは微妙にずらされており、3M型では「1-5-3-6-2-4」の順番となる。これはクランクシャフトをスムーズに回転させるため、9号で提供した「コーションシールA」の下端にも記載されている。ルーベなどを使って確認してみるのもいいだろう。



10



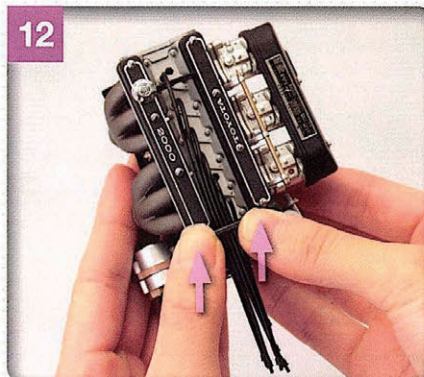
6本のコードを差し込んだ状態。一番長く、エンジンのリヤ寄りに取り付けたコードが6番、一番短く、フロント寄りに取り付けたコードが1番となるので覚えておこう。

11



差し込んだプラグコードが抜けまいよう注意しながらコードの上部分を全体的に押し下げ、少しずつコードを曲げる。一気に曲げると「折れ目」がついてしまうので注意しよう。次に、コードがある程度まで曲がってきたらコードホルダー部をスライドさせ、裏側の取り付けピンをヘッドカバーの取り付け穴にセットする。

12



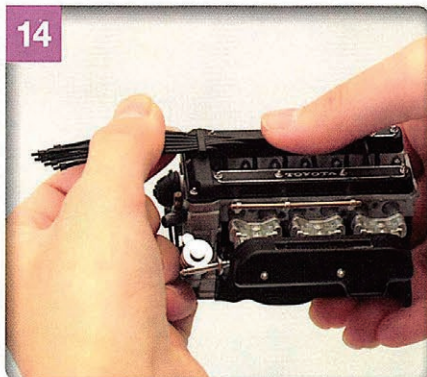
ホルダー部の取り付けピンをヘッドカバーの穴に差し込み、真っすぐに押し込んでホルダー部を固定する。

13



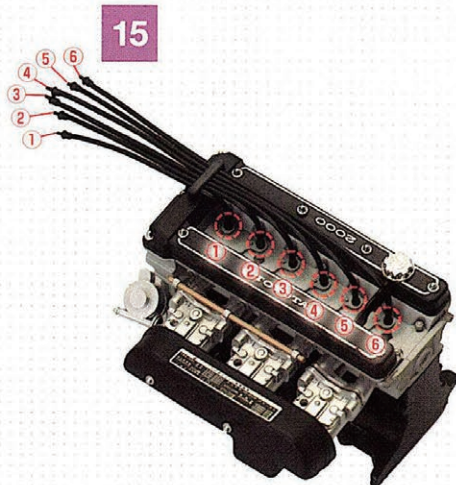
プラグコードを写真のように押さえつつ、ホルダーの左側に出た部分を軽く引き出して、コードの曲がり具合をより小さく整える。

14



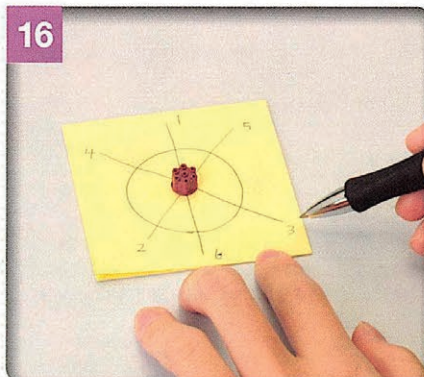
13の作業を横からみた状態。各プラグコードの“曲がっている位置”が、ヘッドカバーと同じくらしいの高さになるよう調整する。

15



プラグコードの取り付けが完了した状態。写真のようになっていないか確認しよう。

16



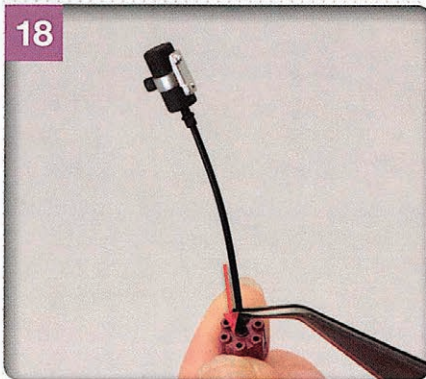
紙と筆記具を用意し、④ディストリビューターキャップに取り付けるプラグコードの順番を確認する。ディストリビューターキャップの外周には6個の穴が設けられ、順番は右回りに「1-5-3-6-2-4」となる。間違えやすいので、簡単な図を実際に描いた方が確実に覚えられるだろう。

17



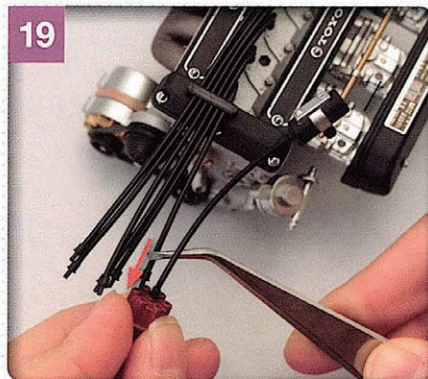
⑤イグニッションコイルを用意し、コード先端に設けられた取り付けピンを、ディストリビューターキャップの“中心の穴”にセットする。取り付けピンはとても細いので、ピンセットを使って作業するといいだらう。

18



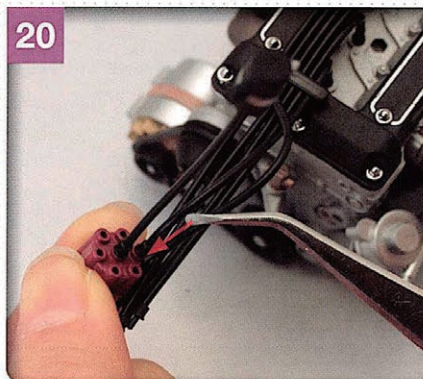
取り付けピンが設けられた樹脂パーツをピンセットで押し込み、イグニッションコイルをディストリビューターキャップに取り付ける。

19



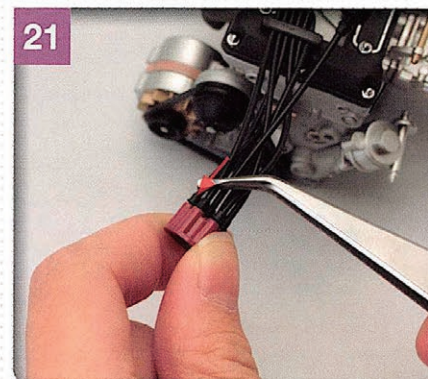
スパークプラグコードの「1番」をディストリビューターキャップ外周の穴に差し込む。この穴は外周6箇所の中のどれでも良い。

20



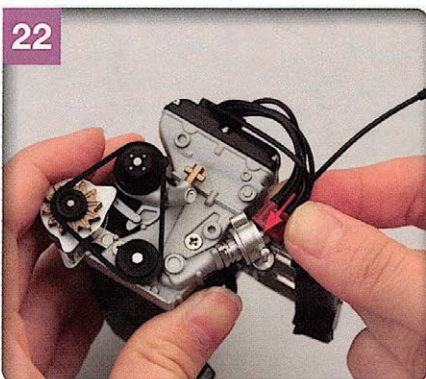
ピンセットを使い、取り付けピンを真すぐに押し込んでプラグコードを取り付ける。この位置が「1番」になったので、後は16で説明した順に各プラグコードを取り付けていく。

21



最後に「4番」のプラグコードを取り付ければ準備完了だ。コードの順番がわからなくなったときは、16を参照して確認しよう。なお、この部分のコードは絡み合ってしまうが、これは実車の仕様とまったく同じだ。

22



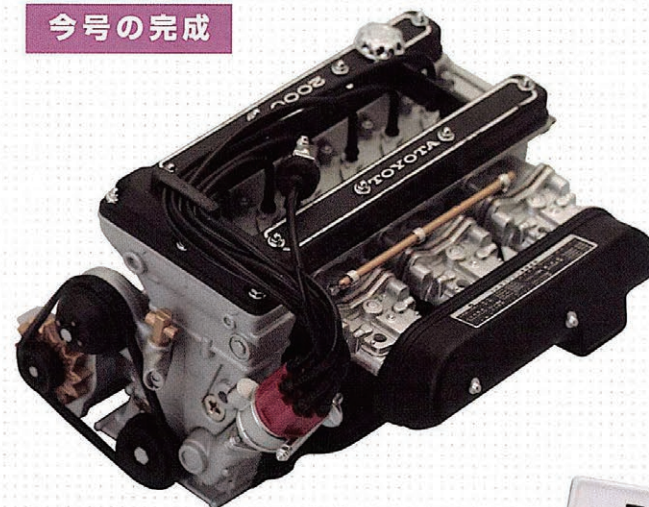
ディストリビューターキャップを、10号でエンジンブロック前面に取り付けたディストリビューターBの取り付けピンにセットする。このとき、プラグコードに無理な力が加わらないよう、適度にひねって取り付け角度を調整しよう。

23



ディストリビューターキャップを真すぐに押し込み、ディストリビューターBに取り付ける。なお、イグニッションコイルの樹脂パーツ部分は、後に提供されるパーツに取り付けるので、現状では作業の邪魔にならない場所に寄せておこう。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。スパークプラグコードの取り付けは、順番が設けられているため面倒だが、これを守り守ることもスケール感を高めるポイントになる。

TOYOTA
2000GT